

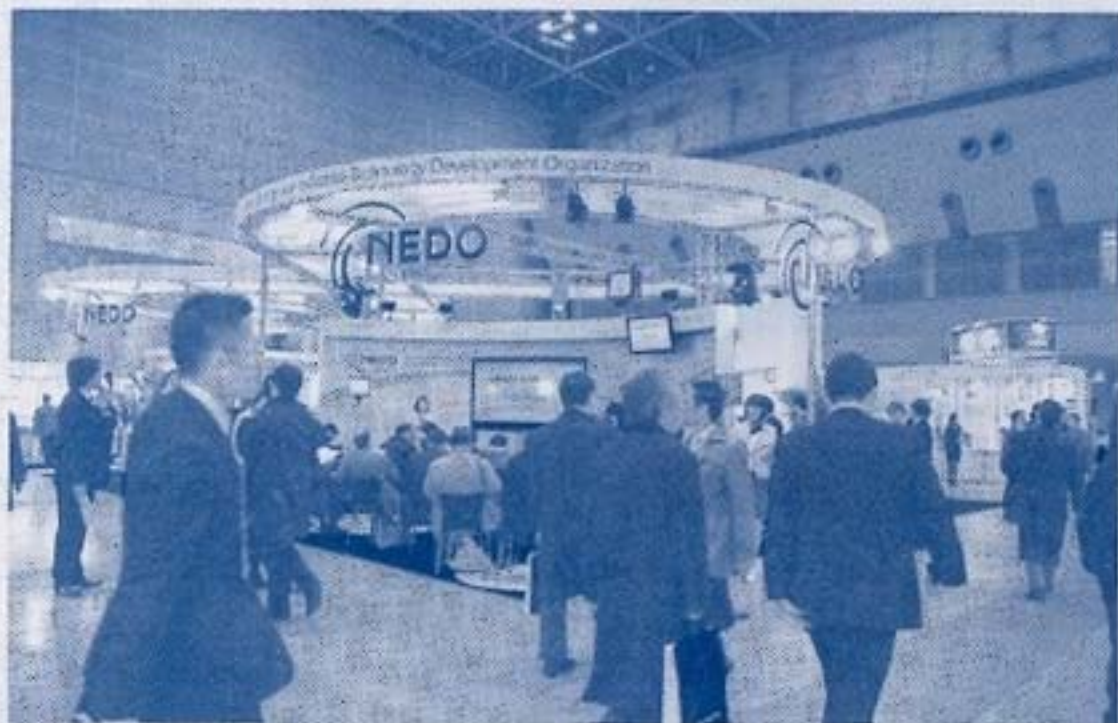
第16回震災対策技術展 / InterAqua 2012

パシフィコ横浜で2012年2月2日～3日に「第16回震災対策技術展」が開催された。東日本大震災による震災対策への関心も手伝って、来場者は昨年（9,741人）を大きく超える14,255人と盛況であった。

今回の展示は、東日本大震災がもたらした人智を超える被害の大きさが反映されたのか、被害を未然に防ぐ防災というより、被災したあとの避難生活をどうするかということのほうに主眼が移っていた。大がかりな耐震・防災製品をつくるよりは、備蓄用の製品をつくるほうがメーカーもユーザーも動き出しやすいようだ。編集部としては、活気のあった「かつしか異業種交流会」にベストプレゼンテーションの称号を贈りたい。葛飾区を中心に中小企業が独自の製品を送り出していた。中でもサンエービルドシステム(株)による雨水利活用システム「ミニダム」はネーミングの勝利。

上水から下水、海水淡水化、工業用水から排水処理まで、あらゆるウォーター・ソリューションを扱いましょうという、国際的な水ビジネスシーンや弊誌コンセプトにも合致する国際水ソリューション総合展「InterAqua」。早いものでもう3回目を迎えた。2012年2月15日～17日に開催された「InterAqua 2012」は、「nano tech 2012（国際ナノテクノロジー総合展・技術会議）」など複数の展示会と共催で、今年の全来場者は45,024人と昨年（46,502人）とほぼ横ばい。InterAqua単体では中央に構えるNEDOブースがこまめにプレゼンテーションを実施して来場者の注目を集めていたが、大手ブースは余裕なのかパネルとカットモデルが置いてあるだけであっさりしたもの。元気があるのはまだ日本市場で知名度の低い中小企業や外資系企業のブースで、とくに目を引いたのは自家用専用水道の一環。(株)ウェルシィ、ゼオライト(株)などお馴染みの企業に加え、昨年は見かけなかったアクアテクノシステム(株)がさらに加わったことで、ライバル同士でありながら一群を形成することで相乗効果を生んでいた。

今回は第16回震災対策技術展とInterAqua 2012から、注目製品をピックアップして紹介する。



雨水タンク「ミニダムC1000」

サンエービルドシステム(株)



通路が通れなくなるほど人だかりができていたのが、「かつしか異業種交流会」の一員として参加していたサンエービルドシステムのミニダム。

ミニダムにはA, B, Cの3タイプがあり、展示していたのは写真のCタイプ。災害対応型と銘打たれており、1,000L貯水することができる。天板のマンホール部分も大きいので、直接バケツで水をくみ上げることも可能だ。

通常時はトイレ用水や洗車用水に、被災時は防災用水として使用されることを目的としている。非常時には浄水器と煮沸消毒で飲用することもできるとしているが、これはあくまで万が一の備え。

Aタイプは200L貯水できるタイプで、家庭用にも扱えるものとして販売している。手押しポンプや電動ポンプ、鉄骨架台などのオプション部品も充実しているため、震災対策として安心感がもてる。同製品は2001年に葛飾区優良製品の認定を受けている。

問合せ

サンエービルドシステム株式会社

☎03(3693)5478

<http://www.ecopeer21.com/>

【第16回震災対策技術展】